

東南村山から際立つ美味しさを！ おいしい米づくり情報

第2号 播種～育苗初期編

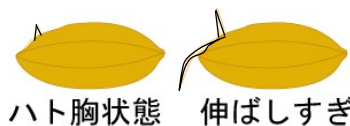
発行：令和 3年 4月 7日
山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト村山地域本部
村山総合支庁農業技術普及課
(TEL: 023-621-8290)

「健苗育成」は、初期生育確保ための最重要事項！

【播種準備(種子浸漬・催芽・播種)】

苗種	播種量(乾籾)	育苗日数	移植	播種	催芽	浸漬	必要箱数
稚苗	150～180 g (催芽籾 185～225 g)	20～25 日 ※加温出芽	5/15 ～	4/25	4/24	4/14	25 箱/10 a
中苗	80～120 g (催芽籾 100～150 g)	30～35 日 ※加温出芽	5/20	4/20	4/19	4/9	30 箱/10 a

- ・催芽は 30～32℃で 20 時間を目安に、ハト胸状態になるまで。
- ・播種量が増えると育苗後期に苗質が低下(老化)しやすいため、育苗可能日数は短くなります。計画的に作業を進めましょう。



【育苗初期の温度管理・水管理】

温度計は育苗ハウス(1.5m)と苗床(地際)に設置しましょう。こまめに温度を確認！！

時期	昼間	夜間	管理点
出芽期	30～32℃		無加温出芽では、覆土から 5～10mm 出芽したら被覆資材を撤去します。低温条件の出芽遅れに注意しましょう。
緑化期	25℃	15℃	外気温が 25℃を超える日は、育苗ハウスを全開にして空気を交換し、熱がこもらないように管理しましょう。
硬化期以降	20～25℃	8℃以上	夜や低温時は保温に努め、霜が予報される場合は、早めに育苗ハウスを閉めましょう。

- ・かん水は早朝に 1 回が基本です。夕方のかん水は、床土の温度を下げるので避けましょう。

<アルミ蒸散シート使用時の注意点>

- ・アルミ蒸散シートは温度の上昇を防ぎ、シート内の温度を一定に保つ効果は高いですが、低温時はシート内の温度が低くなり、出芽までに日数がかかることがあります。
- ・アルミ蒸散シートを使用する場合は、苗箱を並べた後、苗床の温度を 20～30℃となるように日光で温めてから被覆して、シート内の温度を確保しましょう。苗床の温度が 32℃を超えると高温障害の発生リスクが高まるので、温度計で必ず温度を確認しましょう。
- ・出芽が揃った後も被覆を続けると、苗は徒長して軟弱化します。出芽後は速やかに資材を撤去しましょう。

<プール育苗について>

プール育苗では、稲 1.5 葉期に床土の高さまで入水します(ハウスは開放)。稲 2 葉期以降の水深は、箱上 1 cmが目安です。苗が伸びやすくなるため、こまめにハウス温度や水温を管理しましょう。

【基肥散布】 ～基肥の多施用にメリットなし！全量基肥体系は特に注意！～

基肥の多投入は水稻の生育過剰を促して、生育期間中の生育制御が難しくなります。化成肥料(基肥)は、作付品種と圃場の地力に応じて、適量を使用しましょう。

分施(基肥+穂肥)体系における基肥量の目安(窒素成分 kg/10a)

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	あきたこまち	ひとめぼれ
窒素成分	5.0~6.0	3.0~4.0	4.0~5.0	2.5~3.5	4.0~5.0	4.0~5.0

※堆肥を施用した圃場では、堆肥に含まれる肥効分を基肥から減肥する。

- ・全量基肥(一発)体系は、分施(基肥+穂肥)体系よりも減肥が基本です。
- ・特別栽培(つや姫、雪若丸等)では、生産計画に申請した資材と施肥量を散布しましょう。
- ・「つや姫」は出荷基準を満たすため、地力に応じた肥培管理で復田への作付は避けましょう。
- ・「雪若丸」は初期生育確保が重要です。肥効調節型肥料を使用する場合は、溶出パターンが水稻品種の生育に適したもの(初期重点型等)を使用しましょう。

【乾土効果】

- ・乾土効果の発現を狙って耕起は早めに行い、作土全体を十分に乾燥させましょう。
耕起後5日以上降雨がないと、土壌中の窒素が有効化して初期生育の確保が容易になります。

【耕深の確保】

- ・土壌から供給される窒素は、生育期間を通して水稻に供給されます。耕深 15 cmを確保して①根域の拡大と根の活力維持、②地力窒素の発現と養分保持・供給力の増強を狙いましょう。稲わらを土中に鋤き込むため、入水後に浮きわらの発生を抑える効果もあります。

STOP 農作業事故！！

耕うん等の春作業が本格化してきます。トラクターの転落・転倒、ロータリーへの巻き込み等の重大事故の発生が懸念されるので、ゆとりをもって作業を進めましょう。

作業の前には機械を点検し、故障時には必ずエンジンを止めて対処しましょう。

